

特別国民体育大会関東ブロック大会・第54回関東空手道選手権大会申し合わせ事項

期日 令和5年6月24日(土)・25日(日)

会場 埼玉県立武道館

《共通事項》

1. 競技は（公財）全日本空手道連盟空手競技規定及び本大会申し合わせ事項による。
2. 赤帯・青帯は各都県で用意した全空連検定品を使用する。選手各自が用意した帯の使用も可とする
3. 連続して競技する時のインターバル時間は競技時間と同じとする。（形競技の場合は1分間）
組手競技においてコーナーが逆になる場合は5分間の猶予を与える。
4. 監督、コーチは競技中、定められた席に着くものとする。
服装は大会要項に従い各都県指定の公式ジャージとする。履物はスポーツシューズまたは素足とし、審判シューズ、草履、サンダルの使用は不可とする。
携帯電話、カメラ、かばん（ショルダーバック、ウエストポーチ等）の持ち込み不可。
また、大会本部が発行するIDカードを携行する。
5. 選手の胸マークやゼッケンは取れないようにしっかり全周を縫い付ける。試合中に外れた場合、その試合のみ続行し、一旦退場の後は次の試合までに必ず取り付けること。複数の種目に参加するため取り付けできない場合、提示できるようにすること。
6. 少年の空手衣腕の県名表示は、高体連取り決め事項に従い了承する。
7. 女子選手において、アンダーウェア（Tシャツ）を着用する場合は白無地とするが、高校名等ワンポイントまでは認める。
8. 審判長発声による競技開始は初日及び二日目の最初、および別紙でコート主任へ伝達とする。
9. 審判員は原則ブレザー着用とする。正副審判長の同意があればブレザーを脱ぐことができる。
その場合、コート主任を通じて各コートへ伝達する。
10. 初戦でのテーピングの使用は認める。その場合、大会ドクターの診断に従いメディカルチェックを受け、コート主任に申し出て許可を得る。メディカルカードを必ず提示する。

【IDカードとメディカルカード】

- ・選手、監督はIDカード（裏面：メディカルカード）を携行して競技場に入る。
 - ・審判団はIDカードにより選手の本人確認をするが、回収せずに選手自身が管理する。
ただし、メディカルカードにドクターの記載がある場合は、回収してコート主任または副主任が管理し試合が終了後、選手に返却する。
 - ・コート主任は、カード記載がある選手が出場する際、メディカルカードを主審に渡して確認をさせる。
11. 試合を終了した選手は速やかにアリーナから観客席に戻る。関係のない者はアリーナ内に絶対に入らない。アリーナ内で絶対に応援しない。

12. 異議申し立てについて

- ① 判定について審判団に異議申し立てはできない。
- ② 審判の手続きに規定違反があった場合、監督またはコーチは挙手のうえ口頭でコート主任に異議を申し立てること。
- ③ 異議申し立ては手続き違反があった時に即行うこととし、次の試合に入った場合は受け付けない。

《組手競技》

1. 試合方式

- ①個人戦の予選リーグはラウンドロビン方式とし、各プール1位が決勝トーナメントに進出する。
個人戦の準決勝・決勝戦および団体戦はトーナメント方式とする。
- ②審判員は所属する都県選手の審判は行わない。
所属する都県選手の審判又は監査を誤って行った場合、その試合は無効とする。
- ③団体戦の決勝戦、3位決定戦については、審判長と副審判長が審判団を編成する。
- ④団体戦においてチームの勝者数またポイント数が十分である場合は競技終了となる。
※ポイント数が十分とは11ポイント差のこと。
- ⑤団体戦では主審と副審をローテーションで行う。
- ⑥組手団体戦は少年の出場は可能とする。ただし、その場合のルールはシニアルールとなるので、選手起用に関しては各都県で十分に精査し、対応すること。
- ⑦VR（ビデオレビュー）は採用しない。

2. 試合時間

- ①試合時間はすべて2分間フルタイムとする。
ただし、成年男子個人戦の決勝戦のみ3分間フルタイムとする。

3. 安全具等

- ①選手は全空連検定品の安全具を着用しなければならない。
ただし、少年（高校生）個人組手競技においては高体連指定品の安全具を装着するものとする。
※色付の安全具はコーナー色に準じて装着すること。逆色の安全具は認められない。
 - ニューメンホーはVI（6）、VII（7）以外は認めない。ボディプロテクターを装着する。
 - シンガード、インステップガードの装着を義務付ける。少年個人組手出場選手は白（高体連指定品）で統一する。ただし、少年選手が団体戦へ出場する場合のみ、「白」若しくは「赤・青」の双方を可とする。
 - 男子組手選手においてはファールカップの着用を義務付ける。
ファールカップにおいては全空連指定品が存在しないため、市販品での対応とする。

- マウスピースの使用は任意とする。
 - 各種安全具について試合開始時点で装着が認められない場合、是正のため1分間の猶予が与えられる。その場合監督・コーチはコーチ席につくことはできない。選手はその間に対応できない場合は棄権となるので、十分に注意すること。
- ②コンタクトレンズの使用は選手個人の責任において認める。
競技中（特に組手競技）に外れた場合、速やかな対応のために必ず予備を持参すること。

《形競技》

- ・特別国体 関東ブロック大会の形競技は、4コートで実施する。
- ・関東空手道選手権大会の形競技は、個人形の予選ラウンド（ラウンド1）～3位決定戦まで8コートで実施。個人形の決勝戦および団体形は4コートで実施する。
- ・各コートには選手待機席・待機場所と監督席がある。次の選手以外は、すべてパーテーションの外に出ること。

1. 試合方式

- ①審判員5名による得点方式とする。
- ②各ラウンドが終了するまで、コート主任に指名された審判員が採点を行う。所属都県選手の出場であっても交代は認めない。
- ③予選ラウンド（ラウンド1）、ランキングラウンドは1名の所属都県審判員の審判団編成を認める。可能な限り所属する都県選手の審判は行わない。
- ④決勝戦、3位決定戦についてはコート主任が審判団を編成する。所属する都県選手の審判は行わない。
- ⑤試合の開始は基本一斉とする。タイムスケジュールの変更や各コートで開始していただく場合には、審判長（副審判長）がコート主任に知らせる。
- ⑥選手の呼び出しはない。モニターに選手名が表示されたら入場し開始する。
- ⑦演武終了後、選手はその場で待つ。得点が表示されたら選手は退場する。
- ⑧ランキングラウンドの演武順は選手自身がボタンを押す抽選とし、コート主任が立ち会う。

2. 形の指定

◆ 個人形

- 予選ラウンド（ラウンド1）は全空連指定形（第一・第二）リストから選定しなければならない。
- ランキングラウンドは全空連得意形リスト（第一・第二指定形含む）から選定できる。ただし、予選ラウンド（ラウンド1）で使用した形は選定できない。
- 3位決定戦、決勝戦は全空連得意形リスト（第一・第二指定形含む）から選定できる。ただし、予選ラウンド（ラウンド1）、ランキングラウンドで使用した形は選定できない。

◆ 団体形

- 予選ラウンド（ラウンド1）、ランキングラウンドは全空連指定形（第一・第二）リストから選定しなければならない。（同じ形の繰り返し可）
- 3位決定戦、決勝戦は全空連得意形リスト（第一・第二指定形含む）から選定できる。予選ラウンド（ラウンド1）、ランキングラウンドで使用した形からも選定できる。
- 3位決定戦、決勝戦における形の分解は行わない。

以上